



のり面緑化による雪崩防止柵等の修景



分野 道路事業(道路環境整備) キーワード のり面緑化、道路景観、シーニックバイウェイ

既に雪崩防止柵が設置されている切土法面は、新規にデザインされた雪崩防止柵を採用することは難しく、また、新たに用地を必要とする不可視領域の設定や他への視線誘導策も困難な場合が多く見受けられます。

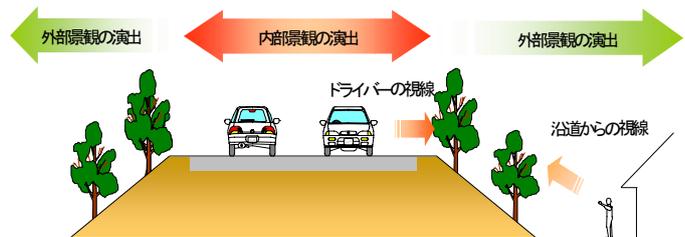
従って、「色彩による景観調和」や「幾何学的線形の緩和による景観への調和」を検討する必要があります。そこで、「樹木植栽による雪崩防止柵の遮蔽」を提案致します。

この手法は、雪崩防止柵の斜面下部に樹木を生育させることによって、直接視界に入り景観の調和を乱すことを抑制し、景観改善を期待するものです。

内容

道路緑化の機能と役割

「植物」は唯一、二酸化炭素を吸収・固定し、酸素を供給することのできる生物であり、生態系を底辺から支える基盤として、建設事業の環境保全・景観創出を図る上で必須要素として位置づけられる。



コンサルティングの方法

1) 緑化目標の設定

吊柵の補助的施設とした場合の緑化方針とその具体的な整備イメージを設定

法面構造(勾配、吊柵の有無、植生、方角)、維持管理
周辺環境(現存植生、気象条件)、雪況、植生基盤

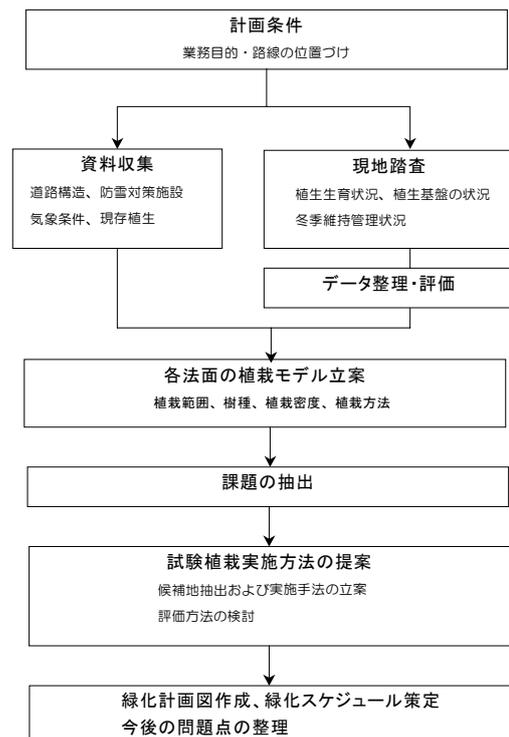
緑化目標・整備イメージ

2) 緑化モデルの立案

- ・ 現地調査に基づいた導入樹種の選定
- ・ 既設吊柵を考慮した植栽の配置及び密度
- ・ グライド及び雪庇対策の検討

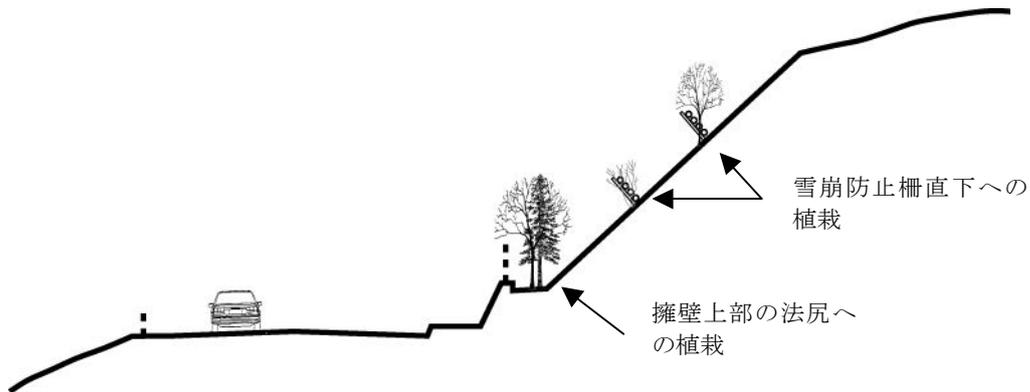
3) スケジュールの策定及び問題点の整理

- ・ 優先度評価による整備スケジュール策定
- ・ 施工時の留意点、維持管理計画、追跡調査



事例紹介

▶ 樹木植栽による雪崩防止柵の遮蔽



樹木植栽による景観調和のイメージ図

▶ 植栽方法

ツル類による雪崩防止柵の被覆

既設の雪崩防止柵に適用する手法は限られます。具体的には、植物を用いて幾何学的線形を緩和することが最も効果的と考えます。その一つは雪崩防止柵そのものにツル類を絡ませる方法であります。

右の写真はフェンスへのツル類の使用事例ですが雪崩防止柵も場合も同様で、柵の下部法面にツル類を植栽し、柵に絡ませ這い登らせる方法で景観との調和を図ります。



ツル植物のフェンスへの施工事例

伐り株移植

伐採後に残った根株を産業廃棄物として捨て去るのではなく、根株を別の場所に植え込んで、その根株からの萌芽・成長を期待して樹木を植栽する方法

－伐り株移植のメリット－

- ① 道路工事で発生する伐り株を有効利用できる（ゼロエミッション）
- ② 現地自生種による植生の再生が可能となる
- ③ 活着率が高く、早期の緑化効果が期待できる。
- ④ 一般の移植樹のように地上部がほとんどないため、移植作業が容易である。

業務実績

- 平成 17 年度 一般国道 230 号 札幌市 中山峠防雪対策設計業務（札幌開発建設部）

株式会社 エーティック Copyright(C) 2001 A-Tic Co.,LTD. All rights reserved

TEL 代表 (011)644-2845 FAX (011)644-2895 <http://www.a-tic.co.jp>

📞 ご質問等ありましたら、お気軽にお問い合わせください。

設計部 TEL 011-644-2814 FAX 011-644-2892

